『夕刊フジ』2010年(H22)7月2日(金)付
1日(木)発行

夕刊フジ

発行所 ©産業経済新聞東京本社 2010
〒100-8160 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL(03)3231-7111(大代表)
(郵便番号変更2月28日第3種郵便物認可)
2010年(平成22年)
7月2日(金)
発行・1日

130円
(消費税込み)

名医はこの人

ブラックジャック探せ

西新潟中央病院(新潟市西区)
院長 亀山茂樹さん(62)

てんかん治療の第一人者

今回紹介する亀山茂樹医師は、てんかん治療における日本の第一人者。

てんかんというと子どもの病気というイメージを持つ人は多いが、じつはそうではない。40―60歳の発症率は低下するが、高齢者になると再び発症リスクが高まるのだ。

高齢者のてんかんは、小児期に多い「けいれん発作」はむしろ少なく、ボーっとしたり、意味のない行動をとるものが少なくない。多くは発作時の記憶がないため、「年齢的な要因から認知症と間違われることも多い」と亀山医師は指摘する。治療法は二通りある。

「まず抗てんかん薬での内科的治療が第一選択。特に高齢者のてんかんは薬がよく効くし、日常生活が格段に良くなる。その上で、もし薬で効果が見られない場合は、適応を見て手術を行います」

一方で、視床下部過誤腫といって「笑い発作」のような特徴的な症状を持つてんかんには、亀山医師が開発した専門性の高い手術が行われる。

てんかんの外科手術を行う病院は全国にあるが、これをメーンに据えている病院はきわめて少ない。亀山医師の元には、日本中から紹介患者が集まるため、症例数は全国でも常にトップクラスだ。

「診断技術の精度が高まり、てんかんか否かは脳波検査ではっきりする。それでも、認知症やほかの病気と誤認されているケースが多いのは、この病気への正しい理解が足りないため」と亀山医師は憂慮する。

認知症と思われていた高齢者が検査の結果てんかんとわかり、亀山医師の治療によって劇的に回復した例は数多い。「年のせい」とあきらめる前に、てんかんという病気について、そしてその名医が新潟にいることを、まずは知っておくべきだろう。(長田昭二)

かめやま・しげき 1948年新潟県生まれ。73年新潟大学医学部卒業。同大脳研究所、同大医学部附属病院、長野赤十字病院、長岡赤十字病院、米・アイオワ大学等を経て95年西新潟中央病院に勤務。同副院長を経て2008年より院長。新潟大学医学部臨床教授を兼務。日本脳神経外科学会専門医、日本てんかん学会認定医他。